

感謝箱献金だより

ガリラヤのほとり 41 号

「主イエスのいのち」

2024 年 1 月 1 日夕刻、震度 7 の能登半島地震と 2 日夕方の羽田空港航空機衝突炎上事故と、年明けからたいへん心痛む新年となりました。特に能登半島では強い余震が頻発し、日を追うごとに深刻な被害の大きさが報道されています。230 人以上の犠牲者の平安と安否不明者と 2 万人近くの被災者たちに、神様が寄り添い、いたわりと慰めが与えられますように。また全国から被害の救援のために働いておられる医療従事者や、福祉関係者、復旧作業従事者たちに神様のお力づけがありますようにお祈り申し上げます。

私は、2011 年 3 月の東日本大震災がフラッシュバックして、一番に懸念されたのは原発です。志賀原発は大丈夫か が最初に脳内を駆け巡りました。輪島市の南に位置する志賀町に建っている志賀原発は、幸いにも現在停止中でした。しかし、小出しに出される報道情報では、5 つある外部電源のうち 2 つを失った。使用済核燃料プールの水がこぼれた—当初発表の量は後日 3 倍の量に訂正された。とあって気が気ではありません。能登半島の日本海側が 4m も隆起しましたが、奇跡的にも志賀町地域には同等の隆起がないようですが、今後も心配と不安は尽きません。

地震大国日本・津波大国日本に原子力発電所は不適切です。原発事故時の屋内退避や避難計画が非現実的であることが、今回の能登半島地震で実証されました。イエス様がいのちを生かす愛に反する行為には否を叫んだように、私たちも「核といのちは共存できない」と訴えます。

【感謝箱献金事務局より】

日本聖公会正義と平和委員会「原発問題プロジェクト」のホームページおよびニュースレター『いのちと海と空と大地』をご覧ください。



東北教区主教
フランシス長谷川清純

お献げ先から

サイディアフラハ

「2024 年が始まりました」

代表 荒川勝巳

ケニアにあるサイディアフラハでは児童養護施設と幼稚園・小学校をおもに運営しています。



11 時におかゆを食べる

2023 年初頭、幼稚園・小学校の新学年の児童数は急減しました。その原因の一つは、ケニア経済の悪化によります。多くの児童が、低額でも授業料を徴収する私たちの学校から、授業内容が劣悪でも授業料が無料の公立小学校へ移っていきました。もう一つの原因は、私が前年病気になり、治療のために日本に一時的に帰り、日本から先生たちをうまく指導・管理ができなかったためです。保護者から先生に対する苦情がきても、それに対処できず、児童が他の学校へ移っていきました。そのために授業料収入が減少して、養護施設の運営にも悪い影響を及ぼしました。

この年はその後、児童減少を克服するために、より授業内容や先生たちの質を向上させるように努めました。児童に教科書を貸出したり、読み聞かせの時間を多く取るようにして改善させたことです。そこで 2024 年の初めには、不況によって公立小学校へ行く児童は相変わらず多かったのですが、先生の授業の質が回復したために、入学する児童は増えました。今はまだ、学校が始まったばかりなので、この増減数は正確に把握できていない状況です。



3 学期終了時、成績の良かった児に賞品授与

リグリマ・ジャパン

「リグリマ通信第 31 号（2023.12.3 発行）」より

Bangladesh からの短信

リグリマ・ Bangladesh 代表 ラブリー・ダゼル

ガランパラ・グループ…リーダーのポピーさんは家庭菜園と魚の養殖、雑貨店を切り盛りしています。みんな自活しようと頑張っています。

ノルチャプラ・グループも同様です。

ビリシリ・グループ…現在グループの活動が滞っています。ミーティングを開いて、悩み事を話し合い、共に祈るよう、わたしは繰り返し励ましています。小規模貸付の返済が遅れているメンバーもいます。

ダッカ・グループ… Bangladesh では 1 月の総選挙に向けてあちこちでデモが起き、移動しにくい状況が続いています。私たちは集まって互いの安否を確認し、お祈りしています。グループのメンバーは皆元気です。

わたしたちリグリマを支援してくださる方々や聖公会婦人会の皆さまに感謝いたします。おかげ様で夫の手術はうまくいきました。皆様に神さまの祝福がありますように。

リグリマ終活のお知らせ

リグリマ・ジャパン代表 上澤伸子

リグリマは来年（2024 年）で 20 周年を迎え、12 月に日本の団体としての活動を終了する予定です。ラブリーさんと共にリグリマの活動を始めた当初から 20 年くらいで活動を終了しようと考えていました。当初の目的は、日本からの支援によって、現地での協力の輪を広げ深めることと、日本と現地の女性との交流を続けることでした。幸いなことに皆さまのご支援と協力によって、それらの目標に近づくことができたと考えています。これまでの皆さまのご尽力に感謝しつつ、最後の 1 年も引き続きよろしくお願い致します。

聖地ろうあ子どもの里 HLID

「聖地ろうあ子どもの里」子どもを守る会・日本
代表 吉松さち子（聖オルバン教会）

「ご支援、まことにありがとうございました」

2016 年 5 月から始めたヨルダンのサルトにある「聖地ろうあ子どもの里」（The Holy Land Institute for the Deaf、以下 HLID）への献金活動を 2023 年 11 月で終了しました。1 月 5 日（金）に現地への送金手続きを行いました。

2010 年ごろからボランティア活動をしてきた私たちは、HLID が求めているのは、ボランティアよりも財政支援であることがわかり、「できることをしよう」というところから出発しました。HLID の当時の施設長 Br. Andrew は、「日本の支援活動の意義は、HLID の支援の輪が、欧米中心からアジアにも広がったことにある」と言っていました。

小さな運動ですが、今では複数の教会を含む 100 人（団体）を超える方々からご支援をいただくようになりました。日本聖公会婦人会には、初期の頃からご支援をいただけてきました。本校でもそのことを重く受け止め、数年前のこと、ヨルダンで聖公会の首座主教会議が開かれ、一行が HLID を訪問した時には、施設長が植松誠首座主教に駆け寄ってきて、お礼を述べたということを知りました。日聖婦のご支援が、わたしたちのささやかな活動に信頼性を与えてくださいました。

毎月「HLID 通信」を発行し、献金者の紹介だけでなく、本校の動きやパレスチナの状況、さらには日本の聾啞者に関係したニュースも取り上げました。聾啞者への理解が少しでも広がったとすれば、望外の喜びです。

「聖地ろうあ子どもの里」は、聖公会中東エルサレム教区が 1964 年に設立した宣教拠点の一つです。中東では 4 番目の聾学校で、32 人の児童と 4 人の教師でスタートしました。同教区には、病院や学校などの宣教拠点が 37 箇所あります。今度のガザでの戦争で爆撃を受け、大きな被害を出したアル・アハリ病院もその一つです。

私たちも高齢化と体力の衰えが進み、余力のあるうちに終えようと、判断しました。心から感謝とお礼を申し上げます。



ブラザー・アンドリューと吉松夫妻

地域支援団体 釜石支援センター望

「釜石支援センター望 10 周年を迎えて」

代表 海老原祐治

早いもので釜石支援センター望は活動を開始して 10 年が経ちました。前身の日本聖公会釜石被災者支援センターを含めると 12 年となり、見渡せば釜石で震災直後から活動している民間団体は釜石支援センター望だけとなりました。それもこれも皆さまのお支えあってのことと思います。けして一人の力だけでは成しえなかったでしょう。ここ数年は団体存続のピンチの連続でしたが、皆さまのお支えと神様のご配慮により 10 年を迎えることができました。感謝申し上げます。



只越4号復興住宅「お茶っこ&クリスマスリース作り」左は望スタッフの山崎さん

これからも地域支援団体として被災者に寄り添っていければと願っています。コロナ禍で傷ついたコミュニティの再生と維持に努め、被災地域の発展に寄与できればと思います。また我々の活動を通して主イエス・キリストの希望が被災地に広がることを望みます。どうかこれからも皆さんと共に歩むことができれば幸いです。よろしくお願いいたします。



天神復興住宅チームキリタンポによる「キリタンポを作って食べる会」チームキリタンポは大館聖パウロ教会と仙台基督教会の有志でつくられています

国際子ども学校 (ELCC)

名古屋学生青年センター 主任主事 谷 景子

国際子ども学校 (ELCC) は、皆様のご支援とあたたかいお祈りのもと、2023 年 4 月に創立 25 周年を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

ELCC は、名古屋市近辺に暮らす、フィリピンにルーツを持つ子どもたちに教育支援を行っています。ELCC に来る理由は様々ですが、近年、日本で働く保護者と生活するために来日し、一定期間 ELCC で日本語等を学び地域の学校に行く、というケースが増えています。

昨年度、フィリピンの高校を卒業する前に来日した子どもについて、通える学校がない、日本語を学ぶ場所もない、といった問い合わせが複数ありました。そこで、これまで中学生までとしていた対象年齢を、今年度より高校生まで広げることにしました。1 月現在 22 名のうち高校生年齢は 6 名。「大学に行きたい」「仕事をするまでに日本語の読み書きを勉強したい」等、夢や目標をもって通っています。



小学生～高校生の3クラス合同で行っている音楽の授業

これからも子どもたち一人ひとりの成長に寄り添い、支えながら活動を続けてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

～感謝箱献金のお献げ先に関するニュース～

◇アジア学院（栃木県那須塩原市）は昨年創立 50 周年を迎えました

「50 年間に 1399 人が卒業して、62 か国以上で主に農業、教育や共同組合事業開発の分野で従事、農村の価値を見直し、楽しく平和な社会で『共に生きる』を実践し続けています。」と広報紙「アジアの土」2023/12 月号で、9 月 16 日の 50 周年の記念式典の様子を伝えています。

ホームページ開くと、アジア学院の使命は「イエス・キリストの愛に基づき、個々人の自己の潜在能力を最大限に発揮できるような公正且つ平和で健全な環境を持つ世界を構築すること。（中略）この共同体に根ざした交わりを通じて、私たちは農村の人々が地域で自分たちの持っている地域資源や能力を共通の目的のために分かち合い活用する最善の方法を見い出してゆくのです。」そして最後の言葉は「共に生きるために」。今と未来を生きる世界の人々にとって、最も必要とされる学びの場です。

日本聖公会婦人会は 1982 年から 2006 年まで 24 年間継続して、アジア学院で学ぶ研修生を支援、その間、多くの交流や訪問が行われました。今も、北関東教区婦人会が支援を続けておられます。

◇中東聖公会エルサレム教区が運営するガザの「アル・アハリ病院に爆撃」

昨年 10 月 7 日から始まったパレスチナのイスラム組織ハマスとイスラエル軍の戦闘は、3 か月を経た今も続いています。10 月 17 日の新聞では「アル・アハリ病院に爆撃、被害者 147 人」の報道。エルサレム教区が運営する病院であり、2005 と 2006 年、2009 年と 2010 年の感謝箱献金のお献げ先です。その後も市民の命をまもる病院が次々と攻撃され、ガザの保健当局発表では、犠牲者は約 25000 人（1/22 現在）。ガザに安全な場所はどこにもなく、食糧や燃料が不足する中で、犠牲者の 7 割が女性と子どもたちといわれています。複雑で困難な問題がある地域ですが、一日も早く武器が置かれることを祈りましょう。

感謝箱献金お献げ先の原則（基本姿勢）

1. 日本聖公会婦人会に送金された感謝箱献金は、社会のしくみの中で生命や存在を危うくされている国内外の人々、とくに女性や子どもたちの自立をめざすための働きに献げる。
2. 献金を送るだけでなく、お献げ先の人たちと互いの顔が見える関係を築いていく。
3. 緊急の援助が生じたときは、原則によらず、1 件につき 50 万円を限度として、役員会と感謝箱献金事務局コアとで協議、決定し支出できる。
4. 各教区からの日本聖公会婦人会への送金は感謝箱献金総額の 2 分の 1 以上とする。

2006 年 6 月第 21（定期）総会后第 2 回常議員会にて決議



コア キャプレン コラム

司祭 アントニオ 出口崇 (京都教区 下鴨基督教会)



ソレ アレ?

私が小学生の頃は、野球が盛んで、多くの男子がプロ野球のチームの帽子をかぶっていました。私は父親の影響でオレンジ色のチームの帽子をかぶっていたのですが、当時住んでいた大阪では黄色いチームの帽子がほとんどでした。ある年、黄色いチームが日本一になり、ほとんどの子どもたちが盛り上がる中、残酷なまでにオレンジ色のチームの帽子を馬鹿にされた記憶があります。そのうち野球への関心が薄れていき、今は応援しているチームはありません。

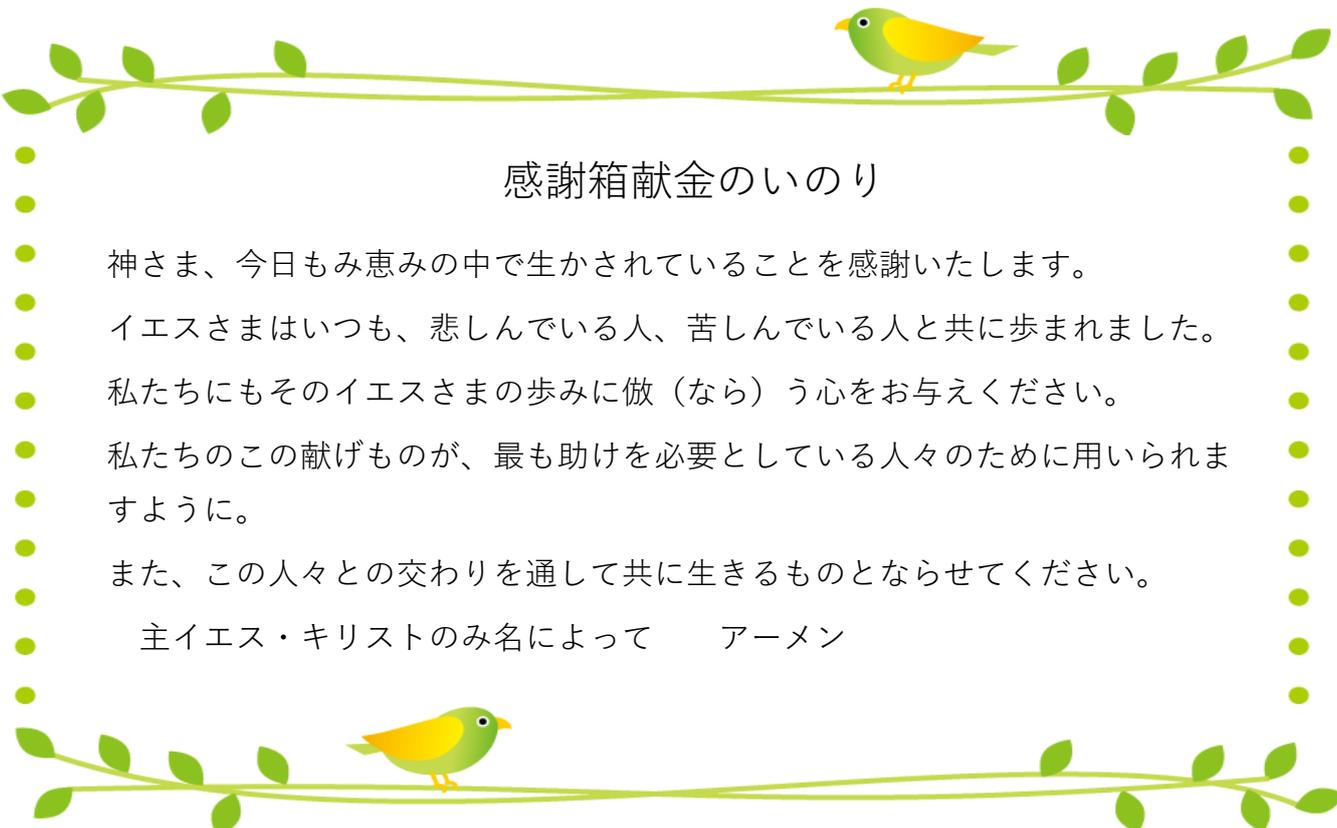
それから 38 年、我が家の子どもたちは少年野球チームに入り、母親も楽しみながら練習に参加しています。WBC が盛り上がり、さらに黄色いチームが日本一になりました。テレビの前で家族全員が大盛り上がりだったのですが、アレ? いつの間にか私以外、全員黄色いチームのファン



になってます。優勝が決まった瞬間の家族の歓声! 喜びに満ちた顔!

一緒に喜ぶべきなのでしょうが、小学生時代のトラウマを思い出しました。

同じ好きではない、一緒に喜べない人とも一緒にいることが出来る。そんな世界であれば。



感謝箱献金のいのり

神さま、今日もみ恵みの中で生かされていることを感謝いたします。

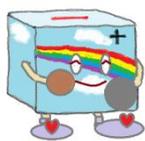
イエスさまはいつも、悲しんでいる人、苦しんでいる人と共に歩まれました。

私たちにもそのイエスさまの歩みに倣(なら)う心をお与えください。

私たちのこの献げものが、最も助けを必要としている人々のために用いられま
すように。

また、この人々との交わりを通して共に生きるものとならせてください。

主イエス・キリストのみ名によって アーメン



感謝箱献金事務局から皆さまへ

コアスタッフのあいさつ

京都教区 大津聖マリア教会 井田涼子（運営委員長）

感謝箱献金を通じて、世界にお友だちができる活動です。多くの出会いに感謝しながら。今年もどうぞよろしくお願い致します。

大阪教区 高槻聖マリヤ教会 中尾由紀子

井田委員長とともに2期目に入ります。昨年は、宣教協議会に参加させていただき、人のお話を聴くことの大切さを学びました。コロナ禍の中、ほとんど活動ができませんでしたが、人と人との新しい繋がりもありました。今年は色々な方々のお話を聴く機会を持って感謝箱献金の活動が広がるようにと思います。



京都教区 上野聖ヨハネ教会 中村節子

このたび、コアスタッフとしてお手伝いをさせていただくことになりました。

私は長い間プロテスタント教会に所属していたので、聖公会についてはまだまだ分からないことも多くありますが、日本聖公会に転籍し、またコア事務局の仕事させていただく中で、私たちは日本国内だけでなく、世界とつながっているということを改めて実感しています。神さまから与えられたこの仕事を、感謝を持って努めたいと思っています。

教会で「感謝箱カフェ」をしませんか。

『だれでもどうぞ！ テーマを決めて、おしゃべりしましょう。』

- ✧ 元日の夕方、北陸、能登半島で大きな地震が発生しました。地震は時間も場所も関係無し。私たちは地震から逃れられません。できることは備え。水や食糧品等の備蓄、家具の転倒防止、避難経路の確認など。そして、地震の体験者のお話を聞くことも大切です。
- ✧ 『ガリラヤのほitori』を読んで、お献げ先の実情を知り、そこに生きる人々に思いを寄せましょう。私たちが学ぶことはどんなことでしょうか。

感謝箱献金の活動は小さな川の流れかもしれません。けれども、水が流れ続けている限り、いつか荒れ地が緑に覆われ、作物が実り、大人も子ども一緒に喜び踊る世界が実現することを願って祈ります。「み心がおこなわれますように」。



書道授業で書いた年賀状(国際子ども学校)

感謝箱とわたし

神学生 ウィリアムス神学館 2 年
ヴェロニカ薦田久美子



プロフィール

出身：大阪府大阪市

出身教会：大阪聖パウロ教会

経歴：損害保険会社の事故調査課で自動車事故を担当した後、20 年以上英語教室の講師をしていました。

趣味：クラシックギター演奏、ゴスペルを歌うこと、料理を作ってお酒と楽しむこと、花を観賞したり育てる事、読書。（神学校に入学してからはどれも満足にできませんが。）

主の御名を賛美いたします

日本聖公会婦人会の皆さま、いつもお祈りとお支えをいただき心から感謝申し上げます。

この度、感謝箱献金についての原稿をご依頼いただきましたが、お恥ずかしいことに感謝箱の姿形にはなじみがあるものの、母教会でほんの数回お献げしただけのような気がします。

今も、神学校 1 年生の時にいただいた感謝箱は硬貨が数枚入った状態で本棚にいて、本が倒れてこないようにブックエンドの代りに頑張っているありさまです。この機会にきちんと感謝箱献金について学び直します。

さて、神学校生活は目まぐるしい日々ですが、そのような中で最近よく思うのは、神学校入学前と今では自分自身が少し変わったということです。これは神学校で直接的、そして間接的に「あなたは何者なのか。何をしたいのか」とひたすら問われているからだと思います。

入学した時はそれなりに宣教・伝道の目標があり、もちろん今もあるのですが、自分の内面と、そこにある思いをじっくりと丁寧に見直す時期なのでしょう。

焦らず、神さまに委ねてこの機会を大切にしようと思います。その結果、卒業の頃には、磨けば光る小さな宝石の原石のような方向性が示されればいいなと思っています。

編集後記

日頃より感謝箱献金へのご理解ご支援を感謝申し上げます。
新しい年が始まりました。その矢先に、大きな災害・悲しい事故と続き辛い幕開けとなりました。今、私たちに来る事を模索しながら、先が見えず、弱っている方々へどのような支援ができるのか、改めて考えさせられます。世界情勢も平和から離れていくような時代の中で、皆様とともに、小さく弱きものに寄り添う主の教えを守っていきたいと思います。
(中尾由紀子)



日本聖公会婦人会感謝箱献金事務局
〒520-2331
滋賀県野洲市小篠原 847-6
井田涼子方
TEL/FAX 077-599-3728
Email suzuko@da2.so-net.ne.jp